15-67 信用制度は資本主義的生産様式を最高最終の形態まで発展させる推進力

「しかし、けっして忘れてはならないのは、第一には、相変わらず貨幣――貴金属の形態での――が土台であって、この土台から信用制度は事柄の性質上けっして離脱することができないということである。第二には、信用制度は私人の手による社会的生産手段(資本や土地所有の形態での)の独占を前提するということであり、信用制度はそれ自身一方では資本主義的生産様式の内在的形態であるとともに他方ではこの生産様式をその可能なかぎりの最高最終の形態まで発展させる推進力だということである。

……他方ではこの信用・銀行制度はさらに前進する。それは産業資本家や商業資本家に社会のあらゆる処分可能な資本を、そして潜勢的な、まだ現実には使用されていない資本までも、用立てるのであり、したがってこの資本の貸し手もその充用者もこの資本の所有者でもなければ生産者でもないのである。このようにしてこの信用・銀行制度は資本の私的性格を廃棄するのであり、したがって潜在的に、しかしただ潜在的にのみ、資本そのものの廃棄を含んでいるのである。銀行制度によって、資本の配分は、私的資本家や高利貸の手から、一つの特殊な業務として、社会的な機能として、取り上げられている。しかし、これによって同時に銀行と信用とは、資本主義的生産をそれ自身の制限を超えて進行させる最も強力な手段となり、また恐慌や詐欺的幻惑の最も有効な媒介物の一つとなるのである。」(大月版『**資本論**』⑤ P782F7-783B10)